

千刈狸の呟き

小さな頃に見た 高く飛んでいくカイト……
 ・君の夢よ 叶えと願う 溢れ出す ラルラリラ。
 2020東京オリンピックが開催された。1年延期され、無観客で、コロナ禍中の特別な大会だった。そしてオリンピック開催前後の世論は大きく変わっていた。

東京オリンピックと新型コロナ感染拡大

大会開催前、多くの人々はオリンピックが原因で感染拡大すると心配した。そして大会中止の世論が大勢だった。しかし大会開催が直接的に新型コロナを感染拡大させたのだろうか。結果はおそらく否であろう。①時系列的に、オリンピック開催前からの感染増加傾向に大きな変化が見られなかったこと。②オリンピックとは地理的に最も離れた沖縄県でも感染拡大が著明となっていること。③デルタ株の増加はオリンピックのない他の国々でも著明であり、世界的傾向であったこと。④選手・役員等と一般人との接触はなく感染の経路はほぼ遮断されていたことが挙げられる。大会前に、大会主催者から感染予防のため万全の対策をとる旨説明があった。しかしその事は世論に聞き入れられることはなかった。

選手の姿と言葉

「コロナ禍（医療崩壊の瀬戸際）にもかかわらず大会を開催して頂いたことに感謝している。」
 「多くの人々に応援頂き大会に参加できたことを思うと、恩返しのために勝ちたかった。」
 「練習がきつくて嫌いになったが、終わったらいい思い出になった。」
 「明日からパリオリンピックに向けて頑張ります。」
 これらの言葉は、試合直後のインタビューで語られたもの。勝者も敗者も大会開催までの5年以上の練習は、私達には想像を超える厳しいものだったろう。東京オリンピックという具体的目標がもし途中で消えたとしたら、選手の忍耐は限界点を越えたであろうと思われた。選手の懸命な姿とこれらの言葉に私達は強く胸を打たれた。そして、世論はオリンピック開催につき肯定的に変化した。

～世論の流れ～

蒼 狸

マスコミが伝えたメッセージ

○大会開催前

「オリンピックが感染爆発を起こす。」

「オリンピックを中止するべきだ。」

「東京オリンピックの開催意義がわからない。」

新聞にオリンピック開催を祝う見出しはなかったし、如何にオリンピックの準備に問題があったかに焦点が当たっていた。

○大会開催後

「東京オリンピックは失敗だった」

「オリンピックはオリンピック」

「感染対策がなっていない」

もし他国で大会が開催されたら、選手村にクラスターが多発し、大会を途中中止しなければならなかったかもしれないと想像できる。日本だから全種目開催できたのだろう。しかしマスコミはオリンピックに関する事は終わったこととして触れず、今は感染拡大に関する政府対応の隈捜しに終始している。

まとめ

マスコミの仕事は批判することだけでいいとは思えない。納得できる説明が必要だといろいろな番組で述べられていたが、政府のすることには納得しない立場をとっていると思われる。オリンピックと学校の運動会や夜の自分達の呑み会を同列に論じたりした。オリンピック開催の意義についてマスコミの識者が視聴者に語ることもできたと思う。世論をあおるような、一貫して批判的立場を表明するコメントが世論に大きな影響を与えていたと考える。

選手は大会開催を高く評価したし、多くの国民が感動できた。コロナ禍でも安全に大会を成就できることを世界に証明した東京大会になった。

自国のイベントに対し肯定的な適切な世論が形成されるべきと思う。そのため政府には既存のメディアではなく直接国民へ説明できるTVチャンネルやSNSを持つべきと考える。これにより直接的に正確な情報が提供され、おそらく新型コロナ感染に対しても適切な世論が形成されると考える。